

ガッツ鹿児島座談会



2010年5月11日 第1号

現在、ガッツ鹿児島は始良市重富のガッツグラウンドで活動しています。現在のグラウンドは4年前に当時の父母会によって造成、整備されたものです。今回、第1回ガッツ鹿児島座談会としてガッツグラウンド造成に関するエピソードを中心に当時の関係者にお集りいただき、お話をうかがいました。

司会：今日は現在のガッツグラウンド造成時の主要メンバー（河内さん、山口さん、吉元さん、長野さん、西マネージャー、以下敬称略）にお集りいただき、当時の苦労話やエピソードをお聞きしたいと思います。また、久保コーチと現育成会長の花田さんにもお越しいただきました。現在、今の場所にグラウンドが移転してきて約4年が経過したわけですが、まず移転のきっかけについてお聞かせいただけますでしょうか。

を命ぜられたりということが他の球団ではよく起こっていました。

河内：練習場が定まっていないチームはいろいろな練習場所を借りなければいけないわけですが、それでは思い切り練習できる環境とは言えないと思います。とにか



河内氏

くガッツのこどもたちを毎回練習場所が変わるジプシー状態にさせることだけは避けたかった。何とか自前のグラウンドで練習させてあげたいという思いがありました。それでも最初に今のグラウンドが使えるようになったのは5月でしたから、4月からの1ヶ月ちょっとは色々な場所で練習をせざるを得ませんでした。

長野：始良球場なども使いましたが使用料もかかり、毎回の道具運びなどが大変でしたね。ですが道具だけは移転先が決まるまでは以前の球場に置いて良いと言われていたのでその点は助かりました。



山口氏

山口：もともとの練習場は加治木町にありまして、町から借りていた土地だったわけですが、始良、蒲生、加治木の3町が合併する時に加治木町から合併後の市へ土地を返還しなければならなくなったのがきっかけです。

西：グラウンドの確保は多くのチームが苦労していて、割と平地に見つけて安く造成することができても結局水はけが悪くて少しの雨で全く練習ができなかったり、できて1年程で地主から立ち退き

司会：では皆さんの努力のおかげで子どもたちは5月以降ずっと今のグラウンドで練習できるようになったわけですね。土地を探すのも大変だったのではないかと思うのですが今の場所はどのようにして見つけたのでしょうか。

河内：まずは場所が見つからないことには何もできませんから、あらゆるつてを使って、また自分たちの足で走り回って探しました。議員にお願いして、空き地がないかを役場に聞いてもらったりもしましたねえ。

山口：とにかくどこか探さなければというので横川や溝辺にまで足を伸ばしたりもしましたね。ですが横川辺りになってしまうと鹿児島市内からは遠いので入部希望者がいなくなってしまうのではないかという心配もありました。現在の場所は最初、長野さんから提案いただいたんですね。



長野氏

長野：見つけて提案はしてみたものの、良く調べてみると鹿児島の有名企業の所有している土地であることがわかり、最初は到底貸してもらえないだろうとあきらめかけてましたね。

河内：そうしたところ、部員の父兄の親戚にその企業の関係者がいることがわかり、そこを窓口交渉したんですね。しかもそのつてが2ルートあることがわかり、それぞれのルートでアプローチしました。

山口：そしていよいよグラウンドを借りれることになった時は嬉しかったですね。ですが初めてその土地を見に行った時の絶望感を今でも忘れることができません。目の前にあったのは到底グラウンドとは結びつかないような荒地でした（笑）。

司会：造成にあたってはまず何かから手をつけたのでしょうか。

山口：今の土地を最初見た時は草や木が生い茂っていてこれを本当にグラウンドにできるんだろかって思いました。最初はとりあえず草と木を全て刈って土を流せばいいだろうと監督に言われたこともあって、その方向で進めたんですね。



造成前の様子

河内：まず木を抜いて土地を平にならそうとして重機を入れたんですが、実際に入ってみると重機をちょっと進めただけでズブズブと入ってしまい、見てみると黒土だったんですね。黒土ということは酷いぬかるみということですからこれは困ったなあということになりました。それでダンプを借りてきてとにかく土を奥に運びました。

河内：結局、土の質が悪すぎるということで土地の高さを少し上げることになり80cmほど上げたわけですが、この土も運良く区画整理で出た不要な土を無料で持って行って良いといわれ、それも利用しました。

山口：最初、とにかく練習できれば良いということで取りかかったわけですが、そのうちやはり雨の日も練習できたほうが良い、それには水はけが良くないといけないというように次第に変わってきて、結局は土をすべて取り除き、ユリカス（海砂をふるいにかけて後の貝殻などのこと）までいれたんですね。

河内：ユリカスは内野全体に10cm程敷き詰めましたかね。

西：今でもユリカスの効果はかなりでていておかげで現在のガッツグラウンドも水はけはかなり良い状態を保つことができます。



西マネージャー

河内：そのユリカスもかなりの値段がしました。コストはなるべく押さえようと、無料でもらった土だけで造成する予定だったんですがだんだん欲がでてきて、やはり内野だけは良い土をいれようということになって、結局はかなりの出費になってしまいましたね。

司会：あれだけのグラウンドを作ったわけですから費用も相当なものだったと思われそうですが資金や資材の調達に関しても教えてください。

河内：あれくらいのグラウンドをすべて業者に頼んで作ろうとすると8000万円くらいかかってしまうらしいのですが皆の力でかなり安くつくことができました。

山口：それでも最初の計画の倍はかかってしまいました。前年度の繰越金などの他に足りない分を銀行から借り入れしました。球団代表の名義で借りて、監督とコーチに保証人になんていただきました。もし部員が減少し、部費が少なくなって支払えなくなった時は今いるメンバーで返済しますという念書を書いて皆で印鑑をつきましたね。

西：もともとチームのバスを買う時に使っていた銀行があって、きちんと支払いをしていたので信用もあり、借りることができました。

山口：本当にあの頃はとにかくこどもたちの練習場所確保で頭がいっぱいで何でもやってしまうという感じでした。本当にあの頃のエネルギーはすごかった。あのエネルギーを仕事に向けていれば儲かったんだろうなあって思います（笑）。

司会：当時のガッツ鹿児島中学部父母会には土木、建築、電気工事などの仕事をされている方たちがいたので工事がはかどったとのことですが、グラウンド造成時に何か役割分担のようなものはあったのでしょうか。

河内：その時私が育成会長をしており、山口さんをグラウンド造成委員長に任命しました。ですが山口さんが指図をするわけでもないのに、結局皆手伝いに来てくれるわけです。土木工事など全く未経験の方でも石拾いや草刈りをしてくれたり。その点では役割分担はしなくても自然とできるところをやるという雰囲気が出ていたのだと思います。私は当時平日に休みを取れる立場だったので平日に来て作業していたのですがその時でも時間の取れる婦人部の方たちが来てくれてゴミ拾いやお茶出しなどいろいろしてくれました。



婦人部もお手伝い

山口：別に集合をかけていたわけでも無かったのですが「私にできることはないですか」という感じで本当に良く集まってくれましたよね。それにしても、あのグラウンド造成に関して河内さんと長野さんの貢献は本当にすごいものがあったと思います。

長野：それは私たちだけではなくて、本当に皆で頑張ったのだと思いますよ。

山口：とにかくいつも河内さんがグラウンド造成に来ているものだから自分もいかなければって気になっていました。皆、同じ気持ちだったのだらうと思います。

司会：グラウンド造成にあたって一番苦労した点は何のようなことでしたか。

西：グラウンド造成の最初は草刈りもでしたが葛が一番苦労しました。5m進んではからまった葛を外してまた5m進んでは外しての繰り返しでした。何しろ強く絡まっているのをプライヤーやペンチを使って外さなければならず本当に大変でした。



山口：最初草の丈が2mくらいあり、雑木も直径15cmくらいのもがたくさん生えていて、まだそれは良かったのですが、いざ草むらの中を探検してみたら冷蔵庫や洗濯機が出てくる出てくる。しまいには船まで出てきましたからね。

河内：この船は海に入ったボールを取りに行くのに使えるなって半分本気で思いましたね。そしたら持ち主が出て来た（笑）。

山口：草刈りは、機械が入れるところは機械でするわけですが、本当に大変な場所には機械が入れなかったりして、そうすると吉元さんの登場となるわけです。



吉元氏

吉元：小学部のグラウンドの方からずっと刈ってくるわけですが竹やぶになっている場所があったりしてそれも全部切り倒して刈って平らにしなければいけなかったのでもっとも苦労しました。

山口：堤防も海水の浸入を防ぐ板が壊れて外れていたの、軽石や流木が大量に流れ込んでいて全部掘り起こしましたね。

西：今はその堤防も完全に塞いで海水の浸入は無くなりました。

山口：木の粉碎には、偶然払い下げの機械を安く入手できたことが幸いでした。その機械はあの時のグラウンド造成で使っただけで壊れてしまいました。それくらいすさまじい現場だったということです。機械はできるだけ持ち寄りでもかかったのですが、どうしても無いものに関してはリースを使うこともありました。燃料費だけでもかなりの金額でしたよ。会計担当者は本当に大変でしたね。毎日頭をかかえていたのを思い出します。

長野：大量に出てきた黒土を売って資金にしようかとしたこともありましたが、造園業者に見てもらったのですが結局質が悪くてダメでした。3年くらい経って中の木の根が腐ったら良い土になって売れるかもしれないとのこと인데まだに外野の外に大量に積み上げてありますね。

西：先日、その話しを思い出してちょっと掘り返してみたのですが残念ながら全然使えそうなものではありませんでした。

河内：最初、狭くても良くていいことで造成し始めたのですがやはりできるだけ大きい方がいいということになって実際に測量してみるとレフト方向に90m取れることがわかり、結局フルスケールの球場を作ることになってしまいました。監督の提案で、レフトは海までギリギリの位置にフェンスをつけました。これはホームランを打った時に海に入った方が子どもたちも楽しいだろうという発想からです。

河内：最初の荒れ地を馴すのももちろん大変だったのですが、その後の設備の整備も大変なことがいろいろありました。偶然、知り合いの工事現場で不要な資材がでたのですが、これが外野のフェンスを立てるのにちょうど良いものだったのでこれを皆で土に打ち込んでパイプを立て、ワイヤーを通してボルトを溶接していったのですが、もうずっと溶接しっぱなしで、目は赤くなって腫れ上がってひどいことになってしまいましたよ。



現在のバックネット

山口：バックネットが完成した時がようやくひと安心でしたね。やっと思い切り練習できるようになったという感じで。

司会：そしていよいよ完成したわけですがその時の感動の様子を教えてください。

河内：完成した時は本当に嬉しかったものです。その中でも特に大野城ガッツをお招きして完成記念試合をした時に育成会長としてご挨拶させていただいたわけですが、その時は感動がこみ上げて来て涙が止まらなかったのを覚えています。

山口：そうでしたね。確かその時の大野城ガッツのピッチャーは九国大付属から甲子園に行った納富君でした。本多君（現ソフトバンク本多選手の弟）もいましたね。

司会：完成後も初期のメンテナンスには苦労したこともあったのではないのでしょうか。

河内：最初、砂埃が近所迷惑になるのではと心配でしたね。皆で手分けして菓子折りもって近所の挨拶回りをしたわけですが心配とは反対に好意的な声が多く、特にこの辺りはお年寄りばかりなので若い人たちがこうして来てくれると心強いというような意見も聞かれました。荒れ地だった頃はもしそこに火をつけられたらどうしようという心

配もあったようです。また、近所でこども達の声がすると活気が出るとも言っていました。散歩がてら練習をよく見に来るご夫婦がいらして、お茶を出したりしましたね。

山口：今のグラウンドには雨水を貯める貯水タンクが3基とエンジンポンプがあり、水道も引いたので水まきにも困りませんが、まだ外野に芝生が無い頃は海水をポンプでくみ上げてそれをグラウンドに撒いていました。海水は蒸発がおそいのでグラウンドに撒くには適していましたがあれも大変な作業でした。



現在の散水の様子

西：当時はまだポンプなどを上手く取り扱える人がいなかったので私一人でやってましたがなかなか大変な作業でしたよ。私の場合、そうやっているうちにいつの間にかマネージャーになってしまいました。

河内：西さんのあの頃の頑張りを皆が見ていてマネージャーはこの人しかいないという流れになっていった感じでしたね（笑）。

山口：以前は台風も良く来てそのたびに砂をいれたり、壊れたベンチも修理していました。最近は台風があまりこなくなったのでそのようなことも少なくなったようですね。

西：2年前に芝生を植えた時も皆頑張ったんですよ。志布志に芝を提供してくれるという方がいて、取りにいったわけですがトラックで何往復もしました。種も撒いたのですがほとんどは1枚1枚張ったわけですからね。

山口：今、ガッツグラウンドは良い具合に草が生えて青々としており、とても良い感じですね。

久保：芝をいれたおかげで外野へのゴロの打球がイレギュラーしなくなったのと、だいぶ砂埃が減ったのだと思います。



長野：今でもガッツグラウンドの近くを通るとつい眺めてしまいますよね。きれいに維持されているので見ていてとても嬉しくなります。



司会：ガッツグラウンドの評判はいかがですか？

山口：ロケーションは最高ですから練習試合に来るチーム皆がうらやましがりますよね。大野城ガッツがホームステイで来た時も子どもたちが昼休みに堤防に行った切り帰って来なくなって、よほど海が気持ちよかったのでしょうか。バッティングも桜島に向かって打てという感じなので最高なのではないでしょうか。



花田：筑後ドジャースが遠征で来た時も子ども達だけでなく親までが修学旅行に来たみたいだと大喜びしていましたよ。

司会：現在のガッツグラウンドはほぼ完成に近いかと思いますが、今後の改良の予定はありますか？

西：今年でグラウンドができて丸4年になるわけですが徐々に修理が必要な場所も出てきました。外野フェンスもだいぶ錆びてきています。バックネットの上部は最初に貼った針金のものは錆びてしまい、ついにはファウルボールで裏の家のガラスを割ってしまうという事故が起きたためにナイロン製のネットに張り替えました。張り替えてからはそのようなことは起きなくなりました。

久保：今後手を入れるとすれば、外野の芝が無い部分に砂を入れたら良いと思うのですが。

山口：そうですね。少しボコボコになっているところがありますね。均さなければいけませんね。

司会：今日は皆さんグラウンド造成に関するいろいろな話をおきかせいただきありがとうございました。最後に一言お願いいたします。

河内：こうやって集まって当時の話しをするとつい最近のこのように思い出しますね。

山口：でももう一度やれといわれたらイヤだと言うと思います。最初のジャングルのようなだったときの全体像を写真に残していなかったのがちょっと悔やまれます。

花田：今日はOBの皆さんにガッツグラウンド造成についての苦労話をきかせていただいて本当に嬉しく思います。私たちは今のグラウンドを当たり前のように使っているわけです



が、OBの方たちの苦労と多くの方の支えであのグラウンドが使えているんだということを改めて思いました。今後も大事に使って行くとともに少しずつ進化もさせて行きたいと思っていますので近くに来た時は是非立ち寄ってください。

長野：現役の方にそう言っていただけると私たちも嬉しいし、頑張った甲斐があったなあと思います。

この後も飲み会は続き、話に花が咲きました。
その中のいくつかをご紹介します。

司会：ガッツのこどもたちは本当にガッツ鹿児島というチームそして野球が好きですね。

河内：うちの子が3年のとき、ゴールデンウィークのクレインカップの2日目で負けたんですが、負けるとその後ゴールデンウィークがあけるまでは休みになるわけです。うちの子もたまには中学の同級生と遊ぼうとするのですが何しろ普段いっしょに遊んだことがないからどうして良いかわからず、結局ガッツのメンバーを誘って遊ぶことになり、ほかの子たちも同じように学校の友達と遊ぶのには馴れていないらしくて結局ガッツのメンバーが大勢集まって、何をするかと思えばキャッチボールで、やはり野球から逃れられないんですね。

花田：今でも、午前中の練習が終わって昼ご飯を食べて何するかといえば野球して遊んでるんですよ。

山口：ガッツのこどもたちは土日祝日、平日も月曜、金曜以外は練習があるわけですがそれでもごくたまにある休みの日には集まって映画を見に行ったりしているようですね。そうやって違う中

学に通う子たちと遊ぶというのも良いことなのではと思っています。

司会：こどもがガッツ鹿児島にお世話になって、親子共々本当に皆満足してますね。

花田：野球の技術面に関しては本当に細やかな指導をしていただいて指導者には本当に感謝しています。親でもしないような厳しい愛のムチもたくさんいただけるので(笑)。

久保：親は技術面に関してこどもに何も言う必要はありません。野球のことは私たち指導者が責任をもって指導します。親はただ沢山ご飯を食べさせて頑張れ頑張れと応援すれば良いわけです。あとは私たちに任せてください。ガッツで3年間頑張れば監督が言うように精神的にも肉体的にも強い子に育つと思いますよ。

司会：ガッツは勝つための小手先の野球技術ではなく、高校野球で十分力を発揮できる強い身体と心を育ててくれるんだなあ本当に実感します。今後とも指導者にはこどもたちを厳しく鍛えていただいて父母会はそれをサポートし、OBは必要に応じて色々なことに協力していきましょう。



2010年4月2日・ちゃんこ琴にて

取材：村田(murata.shujiro@gmail.com)

今回の座談会で使わせていただいた

ちゃんこ琴

のご紹介



ちゃんこ琴はガッツ父母会，野球関係者御用達のお店です。力士の付き人をされていた大山さんが提供する本格的ちゃんこ料理は価格も安く味はもちろん絶品です。

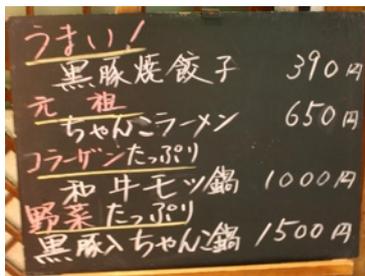


これがちゃんこ琴自慢の黒豚入りちゃんこ鍋です。スープ、肉団子がとにかく美味しい。残ったスープで作るちゃんこラーメンはまた格別で別腹にいくらでも入ります。

もちろん他の料理もおすすめ。特にしめ鯖は鍋ができるまでにビールと一緒にいただくには最高の一品です。



その他にも手作りの黒豚餃子がおすすめ。ランチにはちゃんこラーメンをいただくことにしましょう。和牛もつ鍋も是非一度は味わってみてください。



壁には力士の手形がいっぱいです。



何とハンカチ王子のサインが！実はその隣にあるのは早稲田大学で斉藤投手とバッテリーを組んでいた現横浜ベイスターズ細山田選手（鹿児島出身）のサインです。オフには家族で来られるそうです。



店のご夫婦で経営されています。こどもさんは二男一女で、男の子はもちろん二人ともガッツ鹿児島出身です。

場所は鹿児島中央駅西口から徒歩3分のとても便利な所にあります。始良，加治木方面からJRを使って飲みに来るにもとても便利ですね。是非みなさん一度味わいに行ってみてください。



(電話099-257-5112)